



NISA対象
成長投資枠

販売用資料

2026年8月

にいがた未来応援グローバル株式ファンド

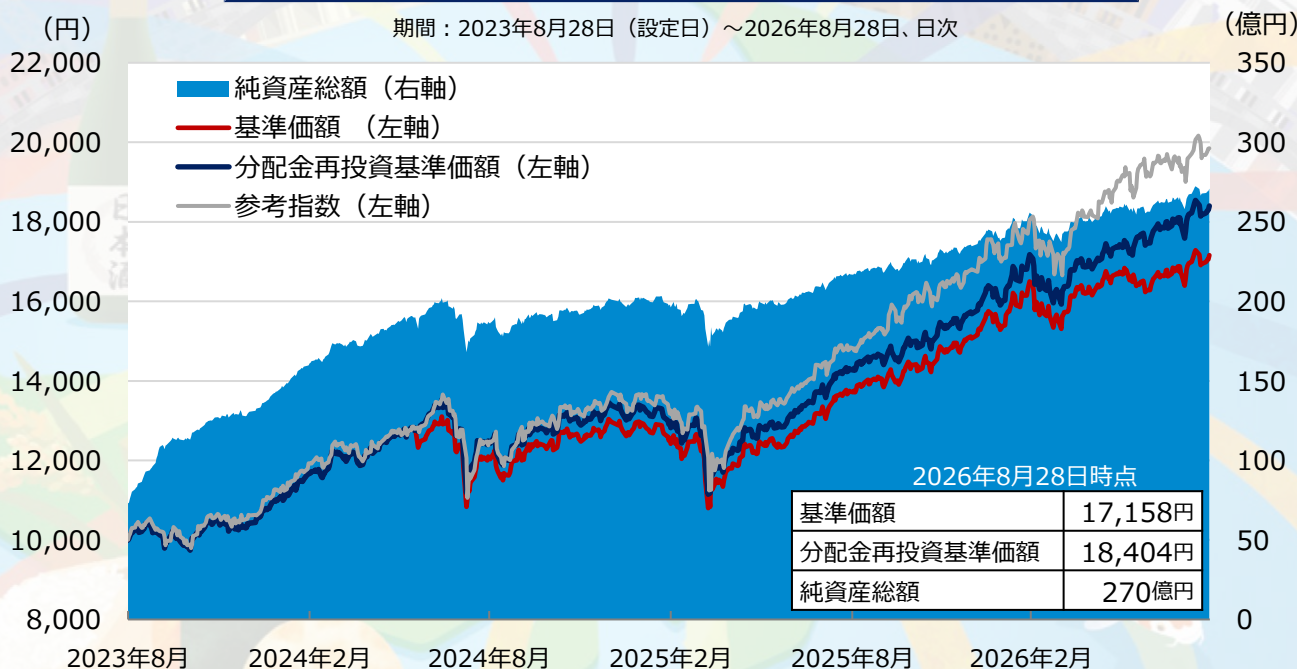
追加型投信/内外/株式

愛称: グローカルにいがた

おかげさまで 3周年記念レポート

平素より、『にいがた未来応援グローバル株式ファンド(愛称: グローカルにいがた)』(以下、「当ファンド」)をご愛顧賜りまして誠にありがとうございます。
おかげさまで当ファンドは、設定から3周年を迎えました。
今後も、にいがたの皆さまに愛されるファンドを目指し、運用を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

「グローカルにいがた」の基準価額・純資産総額の推移



- ※ 基準価額は1万口あたりで表示しています。
- ※ 分配金再投資基準価額は信託報酬控除後のものであり、分配金実績があった場合に税引前分配金を再投資したものととして算出しています。
- ※ 参考指数は東証株価指数(TOPIX) (配当込み)50%、MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース) 50%を組み合わせた合成指数です。設定日前営業日を10,000として指数化しています。参考指数はベンチマークではありません。
- ※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※「ご留意事項」を必ずご確認ください。

投資信託は元本が保証された商品ではありません。お申込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

寄附金額と使用用途について

第3期 寄附金総額：23,176,408 円
(第1期～第3期の寄附金総額 53,952,734 円)

●寄附先

「新潟県の未来づくり」を支援するため、第3期決算にて新潟県、公益財団法人ブルボン吉田記念財団、公益財団法人新潟県国際交流協会に寄附することと致しました。地域社会への貢献にご活用いただく予定です。



[寄附金使用用途]

新潟県が進める未来づくりの一環として県が取り組む各種観光施策等の振興を目的に当ファンドの寄附金を活用させていただきます。

- ・観光旅行者の満足度向上及び再訪促進の取組
- ・外国人旅行者のための観光情報の発信及び外国人旅行者の来訪促進の取組
- ・観光振興に寄与する人材の育成、観光に関連する団体組織の充実等のための取組
- ・すべての人にやさしく魅力ある観光地づくりのための取組 など



公益財団法人ブルボン吉田記念財団

[寄附金使用用途]

文化芸術やスポーツを振興させるためにさまざまな助成事業を展開することを目的に当ファンドの寄附金を活用させていただきます。

- ・文化芸術に関連する講演会や音楽会、展覧会の支援や、スポーツイベントへの助成
- ・次世代への文化や知識の継承のための奨学金制度や褒賞事業
- ・地域社会における文化や教育の向上 など



公益財団法人新潟県国際交流協会

[寄附金使用用途]

新潟県内で国際交流と多文化共生を推進することを目的に当ファンドの寄附金を活用させていただきます。

- ・外国人住民支援：生活相談窓口を設け、医療や防災情報を多言語で提供
- ・多文化共生の推進：地域社会での多文化共生を目指し交流イベントを開催
- ・日本語教育：県内の日本語教室の運営サポートや、日本語学習の機会を提供
- ・国際理解教育：学校での国際理解教育の支援 など





◆ 2026年の当ファンドの運用状況

- 2026年の当ファンドの分配金再投資基準価額は、米国、イスラエルなどによるイラン攻撃を受けて中東情勢が緊迫し、2026年2月末から3月頃にかけて一時的に下落した局面を除くと、概ね良好な推移しました。足元は、ファンド設定来でみると最高値圏で推移しています。
- こうした環境下、2026年6月の第3回決算において分配金500円(1万口あたり)をお支払いしました。

＜2026年初来の分配金再投資基準価額の推移＞

期間：2025年12月末～2026年8月28日、日次



※ 基準価額は1万口あたりで表示しています。
※ 分配金再投資基準価額は信託報酬控除後のものであり、分配金実績があった場合に税引前分配金を再投資したものととして算出しています。

＜基準価額の要因分析＞

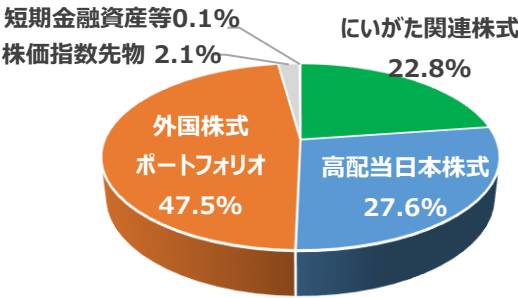
(2026年1月～2026年7月まで、単位：円、1万口あたり)

	2026年							計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
騰落額	307	1,127	-1,197	945	490	-340	260	1,592
にいがた関連株式	148	533	-358	120	13	126	133	715
高配当日本株式	216	522	-449	62	194	3	253	801
外国株式ポートフォリオ	-42	85	-441	831	271	53	-104	653
株価指数先物	3	5	70*	-50*	30*	-1	-3	54
分配金						(500)		(500)
その他(信託報酬等)	-19	-18	-20	-18	-18	-21	-20	-134

* 中東情勢が緊迫化した局面において、株式先物を活用し、実質的な株式組入比率を低下させた影響が含まれています。

＜資産配分＞

(2026年7月末時点)



- 2026年の株価上昇局面においては、AI関連投資の増加期待などにより、世界的に半導体関連株式が株式市場の上昇をけん引しました。
- 内需関連銘柄の比率が高い「にいがた関連株式」は相対的に堅調な値動きとなり、当ファンドの基準価額上昇に寄与しました。

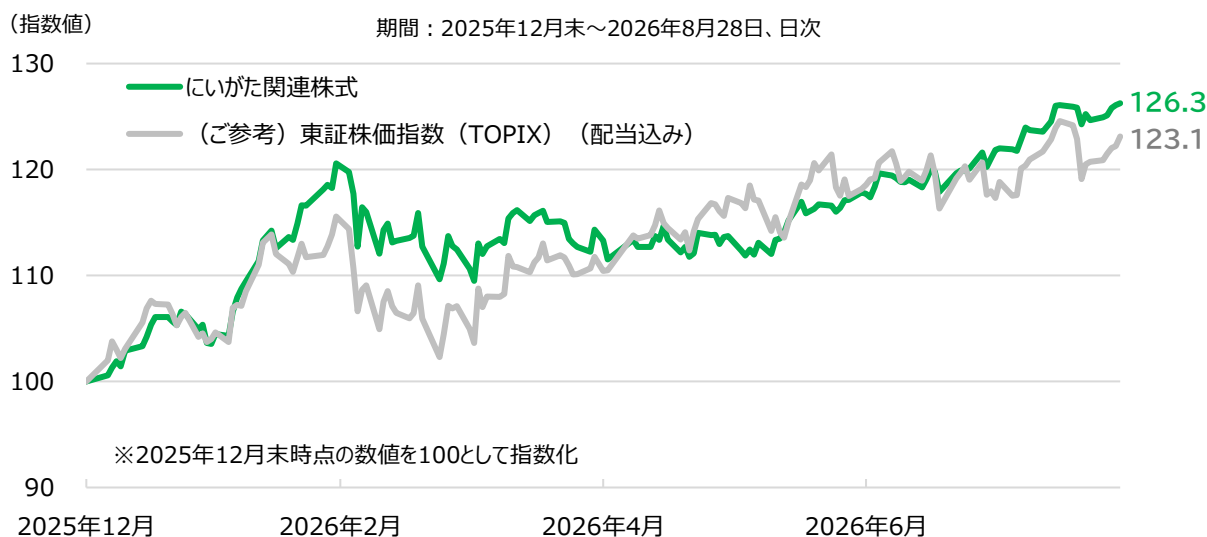
※ 資料では「にいがた関連株式」は明治安田にいがた関連株式マザーファンド、「高配当日本株式」は明治安田高配当サステナビリティ日本株マザーファンド、「外国株式ポートフォリオ」は明治安田外国株式ポートフォリオ・マザーファンドを指します。各マザーファンドの詳細は4～10ページをご参照ください。
※ 「基準価額の要因分析」は、簡便的に計算した概算値であり、その正確性、完全性を保証するものではありません。四捨五入した数値を使用しているため、各要因の合計が騰落額と一致しないことがあります。
※ 組入比率はマザーファンドへの投資を通じた「にいがた未来応援グローバル株式ファンド」の純資産総額に対する割合です。
※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。



◆「にいがた関連株式」について

- 2026年年初来でみると、「にいがた関連株式」は、大型株の構成ウェイトが高い東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) を上回る値動きとなり、26.3%の上昇と堅調に推移しました。
- 「にいがた関連株式」では、2026年7月末時点で37銘柄に投資しています。2026年に入り、AIRMAN、ユニオンツールなどの優れた製品を製造している組入銘柄が好調で基準価額の上昇に寄与しました。今後も「にいがた関連株式」への投資を通じて地元企業の成長を支援する方針です。

＜「にいがた関連株式」のパフォーマンス推移＞



＜「にいがた関連株式」の組入上位5銘柄＞

2026年7月末時点

	銘柄名	業種	組入比率
1	AIRMAN	機械	1.4%
2	アクシアル リテイリング	小売業	1.1%
3	ヨネックス	その他製品	1.1%
4	コメリ	小売業	1.1%
5	第四北越フィナンシャルグループ	銀行業	1.1%

組入銘柄数：37

＜「にいがた関連株式」の組入上位5業種＞

2026年7月末時点

	業種	組入比率
1	小売業	4.5%
2	建設業	3.5%
3	食料品	3.3%
4	機械	2.0%
5	銀行業	1.8%

※「にいがた関連株式」は明治安田にいがた関連株式マザーファンドを指します。「にいがた関連株式」のパフォーマンス推移は運用管理費用（信託報酬）等のコストを考慮せずに算出しています。

※東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は「にいがた関連株式」のベンチマークではありません。

※組入比率は、当ファンドの純資産総額に対する比率です。

※業種は東証33業種分類を使用しています。

※個別銘柄への投資を推奨するものではありません。また、組入銘柄は将来変更されることがあります。

※上記は過去の実績および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

出所：ブルームバーグのデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成



◆「にいがた関連株式」の組入銘柄のご紹介

▶ AIRMAN (業種:機械 証券コード:6364)

コンプレッサーや発電機を主力とする建設機械メーカー

👉 事業内容

- ◆ エアコンプレッサの製造・販売を行う。主な製品にはエンジンコンプレッサ、モータコンプレッサ、エンジン発電機、高所作業車などが含まれる。

👉 強み

- ◆ 高品質・高耐久性に加え、高い技術力を強みとし、建設・産業分野向けに幅広い製品を提供している。長年培った技術力と信頼性を背景に、安定した顧客基盤を有する。

《株価推移》

期間：2025年12月末～2026年8月28日、日次



▶ アクシアル リテイリング (業種:小売業 証券コード:8255)

地域密着型の食品スーパー

👉 事業内容

- ◆ 小売店グループの持株会社。新潟を中心にチェーン展開するスーパー『原信』『ナルス』や群馬県のスーパー『フレッセイ』、製菓・製パン店『ボン・オーハシ』を運営する。

👉 強み

- ◆ 地元密着型の食品スーパーで、加工センターを活用した生鮮食品の品質・鮮度管理に強みを持ち、高い顧客支持を獲得している。

《株価推移》

期間：2025年12月末～2026年8月28日、日次



Axial
RETAILING



※ 写真は各社より提供を受けたものです。

※ 業種は、東証33業種分類を使用しています。

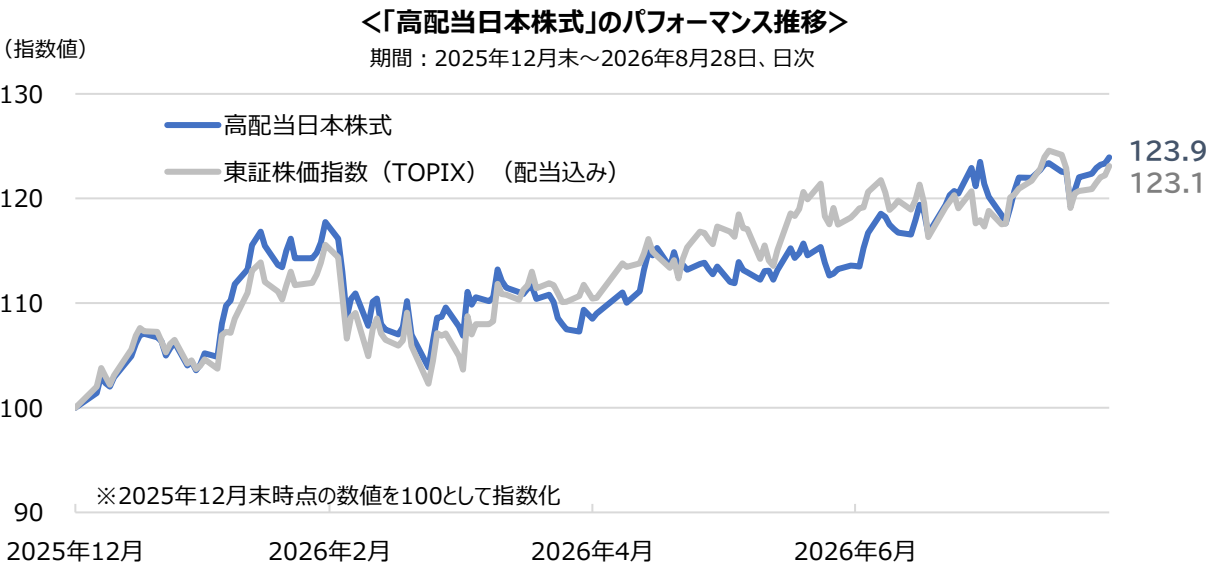
※ 上記は個別銘柄の推奨または投資勧誘を目的としたものではなく、今後当ファンドが当該銘柄に投資することを保証するものではありません。

※ 上記は過去の実績および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

出所：各社ホームページ、ブルームバーグのデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

◆「高配当日本株式」について

- 国内株式市場は年初来でみると堅調に推移しました。AI関連株式などが日本株を牽引したため、日経平均株価は2026年6月に70,000円を上回る水準で推移した局面もありました。こうした環境下、「高配当日本株式」も概ね堅調な動きとなりました。
- 2026年後半も、「高配当日本株式」は底堅く推移するとみています。理由は以下の通りです。
 - ① 日本企業では資本効率の改善が継続しており、株主還元の強化も引き続き進む見通しです。
 - ② AI関連株式の急騰が一服し調整局面に向かうことも想定される中、これまで出遅れ気味だったバリュー株(高配当株式)への資金シフトが期待されます。
 - ③ 新NISAの拡大・定着により、個人投資家が長期で保有しやすい高配当株式に流入しやすい環境が整っています。



＜「高配当日本株式」の組入上位5銘柄＞
2026年7月末時点

	銘柄名	業種	組入比率
1	第一ライフグループ	保険業	1.3%
2	三井住友トラストグループ	銀行業	1.2%
3	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	1.2%
4	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.2%
5	オリックス	その他金融業	1.2%

組入銘柄数：38

＜「高配当日本株式」の組入上位5業種＞
2026年7月末時点

	業種	組入比率
1	銀行業	4.3%
2	化学	3.0%
3	卸売業	2.4%
4	保険業	2.3%
5	情報・通信業	2.0%

※「高配当日本株式」は明治安田高配当サステナビリティ日本株マザーファンドを指します。「高配当日本株式」のパフォーマンス推移は運用管理費用（信託報酬）等のコストを考慮せずに算出しています。

※ 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は「高配当日本株式」のベンチマークではありません。

※ 組入比率は、当ファンドの純資産総額に対する比率です。業種は東証33業種分類を使用しています。

※ 個別銘柄への投資を推奨するものではありません。また、組入銘柄は将来変更されることがあります。

※ 上記は過去の実績および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

出所：ブルームバーグのデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成



◆「高配当日本株式」の組入銘柄のご紹介

▶ 第一ライフグループ (業種:保険業 証券コード:8750)

日本を代表する大手保険グループの一角

👉 事業内容

- ◆ 生命保険事業を中心に、国内外で事業基盤を拡大。資産運用やアセットマネジメント事業も展開し、収益源の多様化を進めている。

👉 業績見通し

- ◆ 国内外の生命保険事業と資産運用が堅調に推移し、前期は過去最高益を更新しました。今期も海外事業の成長を中心に増益を見込んでおり、配当方針の見直しに伴い、配当性向50%以上に加えて機動的な追加還元を行うことで、連続増配を計画されています。



《株価推移》



▶ 三井住友トラストグループ (業種:銀行業 証券コード:8309)

信託・資産管理分野に強みを持つ総合金融グループ

👉 事業内容

- ◆ 信託銀行を中心に、資産運用、資産管理、不動産、年金関連サービスなどを展開。長期的な資産形成を支える金融サービスを提供している。

👉 業績見通し

- ◆ 金利上昇や信託関連ビジネスの好調を背景に、今期も資産運用・資産管理業務を軸に連続での最高益更新が見込まれます。株主還元については、累進配当と機動的な自己株式取得を組み合わせ、総還元性向を50%以上へ引き上げる方針が示されており、還元強化への期待が高まっています。



《株価推移》



※ 写真はイメージです。

※ 業種は、東証33業種分類を使用しています。

※ 個別銘柄への投資を推奨するものではありません。また、組入銘柄は将来変更されることがあります。

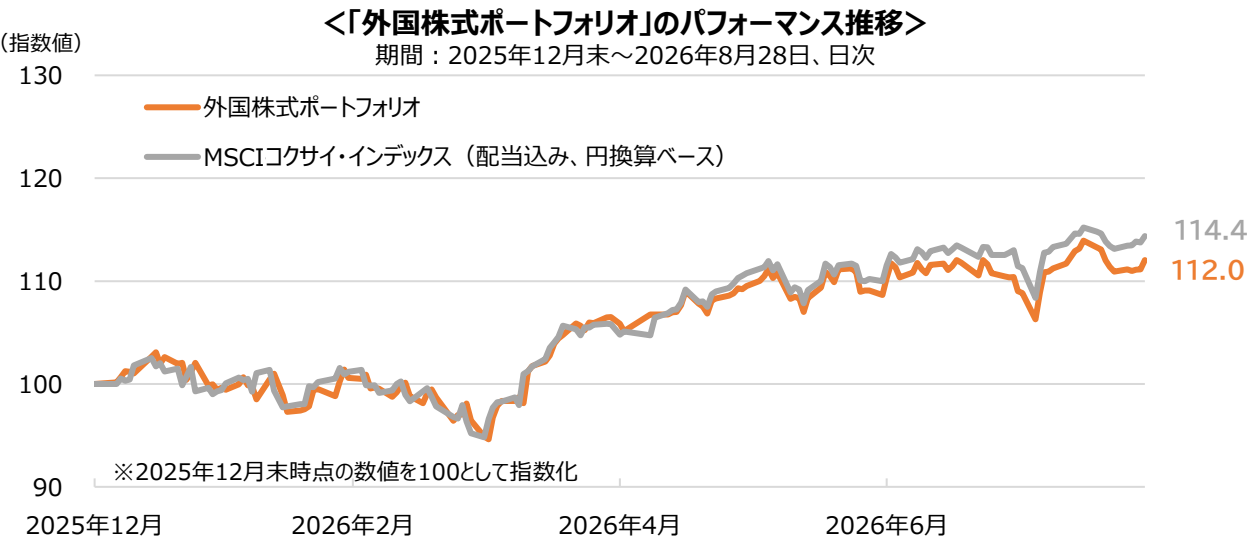
※ 上記は過去の実績および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

出所：ブルームバーグのデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

◆「外国株式ポートフォリオ」について

- 世界株式(MSCIコクサイ・インデックス)の2026年の年初来の推移は、2月末から3月頃にかけて中東情勢が緊迫し、原油に対する供給懸念が強まった軟調な局面もありましたが、米国のハイパースケーラー*のAI関連投資やその波及効果への期待が相場を支え、底堅く推移しました。一方で、インフレや金融政策を巡る不透明感から上値が重くなる場面も見られました。
- 「外国株式ポートフォリオ」は、米国へ約75%、欧州へ約15%投資を行いました。2026年も相場のけん引役となったAI関連企業への投資を高め維持し、概ね世界株式(MSCIコクサイ・インデックス)と同程度のパフォーマンスとなりました。米国を中心とした企業業績の拡大とAI関連投資の継続が追い風となり、今後も堅調な展開が期待されます。一方で、各国の金融政策やインフレ動向、長期金利の上昇が株価の重しとなる可能性もあります。特に年初来から株価がしていることもあり、短期的な調整局面には注意が必要です。

*ハイパースケーラーとは、巨大なデータセンターを自社で保有・運用する超大手IT企業（アマゾン、マイクロソフト、アルファベット、メタなど）を指します。



＜「外国株式ポートフォリオ」の組入上位5銘柄＞

2026年7月末時点

銘柄名	業種	国	組入比率
1 エスビディア	半導体・半導体製造装置	米国	2.5%
2 アップル	テクノロジー・ハードウェア および機器	米国	2.5%
3 アルファベット	メディア・娯楽	米国	2.4%
4 マイクロソフト	ソフトウェア・サービス	米国	2.1%
5 アマゾン・ドット・コム	一般消費財・サービス流通 ・小売り	米国	1.2%

組入銘柄数：121

＜「外国株式ポートフォリオ」の組入上位5業種＞

2026年7月末時点

業種	組入比率
1 半導体・半導体製造装置	6.9%
2 テクノロジー・ハードウェア および機器	4.2%
3 資本財	4.1%
4 ソフトウェア・サービス	3.9%
5 メディア・娯楽	3.5%

※「外国株式ポートフォリオ」は明治安田外国株式ポートフォリオ・マザーファンドを指します。「外国株式ポートフォリオ」のパフォーマンス推移は運用管理費用（信託報酬）等のコストを考慮せずに算出しています。

※MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）は「外国株式ポートフォリオ」のベンチマークです。

※組入比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

※業種はGICS（世界産業分類基準）の分類を用いています。

※個別銘柄への投資を推奨するものではありません。また、組入銘柄は将来変更されることがあります。

※上記は過去の実績および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

出所：ブルームバーグのデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成



◆「外国株式ポートフォリオ」の組入銘柄のご紹介

▶ エヌビディア (国:米国 業種:半導体・半導体関連装置 証券コード:NVDA)

世界各地で事業を展開する大手半導体メーカー

👉 事業内容

- ◆ GPU (画像処理装置)を中心に、AI、データセンター、自動運転車などの先端技術を支える半導体の開発・販売を行う。ソフトウェア、ハードウェアの両面で事業を展開する。

👉 強み

- ◆ GPUの設計と開発において世界をリードする。ゲーム、データセンター、AIなどの分野で圧倒的なシェアをもつ。生成AIの発展に大きく貢献している。



《株価推移》



▶ アップル (国:米国 業種:テクノロジー・ハードウェアおよび機器 証券コード:AAPL)

世界各地で事業を展開する大手ソフトウェア会社

👉 事業内容

- ◆ 世界有数のテクノロジー企業で、iPhoneを中核に、Mac、iPad、Apple Watch、AirPodsなどのハードウェアを開発・販売する。

👉 強み

- ◆ iPhoneを中心とした強力なブランド力と高い顧客ロイヤルティを大きな強みとしている。自社開発のハードウェア、OS、半導体を統合することで、優れた操作性と利便性も実現している。



《株価推移》



※写真はイメージです。

※業種はGICS (世界産業分類基準) の分類を用いています。

※上記は個別銘柄の推奨または投資勧誘を目的としたものではなく、今後当ファンドが当該銘柄に投資することを保証するものではありません。

※上記は過去の実績および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

出所: ブルームバーグのデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

ファンドの特色

特色 1

明治安田にいがた関連株式マザーファンド、明治安田高配当サステナビリティ日本株マザーファンドおよび明治安田外国株式ポートフォリオ・マザーファンド(以下、それぞれまたは総称して「マザーファンド」ということがあります。))を主要投資対象とします。

- 明治安田にいがた関連株式マザーファンドの運用においては、にいがた関連株式の中から財務状況や流動性、バリュエーション等を考慮して銘柄を選定します。
- 明治安田高配当サステナビリティ日本株マザーファンドの運用においては、わが国の金融商品取引所に上場されている株式(これに準ずるものを含む)の中から、予想配当利回りが市場平均を上回り、配当や業績等の安定性が高いと判断される銘柄を厳選します。
- 明治安田外国株式ポートフォリオ・マザーファンドの運用においては、世界各国(日本を除く)株式の中から、成長性、クオリティー、バリュエーションに着目して持続的な成長が期待できる銘柄を選定します。
- 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

当ファンドの運用プロセス



「にいがた関連株式」 (マザーファンド)

- 新潟県に本社(これに準ずるものを含む)がある企業
- 新潟県に工場や店舗等があるなど新潟県の経済に貢献している企業

財務状況、時価総額、流動性、
バリュエーション等を分析

にいがた関連株式



「高配当日本株式」 (マザーファンド)

わが国の金融商品取引所に上場されている
高い配当利回りが期待できる銘柄

配当利回り、業績の安定性、配当の安定性、
株価の安定性等からスクリーニング

投資候補銘柄

財務分析、ビジネスモデル分析等
企業のサステナビリティの観点からの定性分析

高配当日本株式



「外国株式ポートフォリオ」 (マザーファンド)

世界各国(日本を除く)株式のうち、持続
的な成長が期待できる銘柄

潜在的に高い成長分野、差別化された
商品・サービス、健全なバランスシート
等からスクリーニング

投資候補銘柄

成長性、クオリティー、
バリュエーション等を分析

外国株式

各マザーファンドの配分比率は、にいがた関連株式は概ね20%程度、高配当日本株式は概ね30%程度、外国株式ポートフォリオは概ね50%程度とします。

にいがた未来応援グローバル株式ファンド

- ※各マザーファンドの組入比率は適宜調整を行います(一部、株価指数先物取引を活用する場合があります。)
- ※原則として、株式の実質組入比率は高位を保ちます。ただし、市場環境等によっては、株式の実質組入比率を引き下げることがあります。
- ※株式を保有した場合と同様の損益を実現する目的または株価変動リスクを低減する目的で株価指数先物取引を活用する場合があります。
- ※運用プロセス図は今後変更される場合があります。

特色 2

年1回(6月15日。休業日の場合は翌営業日。)決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

- 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当収入と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- 収益分配金額は、信託財産の成長に資することを目的に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。
- 収益分配にあてず信託財産内に留保した利益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

※将来の収益分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。

～ 新潟の未来を応援するために ～

当ファンドでは、お客さまにご負担いただいた運用管理費用(信託報酬)の一部を「新潟県の未来づくり」を支援するために寄附を行います。

- 寄附の内容につきましては、委託会社が販売会社と協議のうえ決定し、委託会社のホームページを通じて、受益者の皆さまにご報告します。
なお、寄附金額につきましては、委託会社と販売会社が、それぞれ、毎年6月の決算期末を基準に、収受した運用管理費用(信託報酬)の中から、当該計算期間中の日々の純資産総額に年0.05%の率を乗じて得た金額とします。

※将来的には状況によって上記料率に変更になることがあります。

※資金動向、市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

※「ご留意事項」を必ずご確認ください。

投資リスク

基準価額の変動要因

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

当ファンドは、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、価格変動の影響を受け、基準価額は変動します。これらの運用により信託財産に生じた運用成果(損益)はすべて受益者の皆さまに帰属します。したがって、**投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により投資元本を割り込み、損失を被ることがあります。**

投資信託は預貯金と異なります。

なお、ファンドが有する主なリスクは、以下の通りです。

〈主な変動要因〉

株価変動 リスク	株式の価格は、政治・経済情勢、金融情勢・金利変動等および発行体の企業の事業活動や財務状況等の影響を受けて変動します。保有する株式価格の下落は、ファンドの基準価額を下げる要因となります。また、新興国の株式は、先進国の株式と比較して価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額に大きな影響を与える場合があります。
為替変動 リスク	外貨建資産への投資については、為替変動による影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落(円高)する場合、円ベースでの評価額は下落することがあります。為替の変動(円高)は、ファンドの基準価額を下げる要因となります。
流動性 リスク	株式を売買しようとする際、需要または供給が少ないため、希望する時期に、希望する価格で、希望する数量を売買できなくなることがあります。ファンドが保有する資産の市場における流動性が低くなった場合、売却が困難となり、当該資産の本来の価値より大幅に低い価格で売却せざるを得ず、ファンドの基準価額を下げる要因となります。
信用 リスク	投資している有価証券等の発行体において、利払いや償還金の支払い遅延等の債務不履行が起こる可能性があります。また、有価証券への投資等ファンドに関する取引において、取引の相手方の業績悪化や倒産等による契約不履行が起こる可能性があります。
カントリー リスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。また、新興国への投資は一般的に先進国と比べてカントリーリスクが高まる場合があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価額で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。
- 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファミリーファンド方式には運用の効率性等の利点がありますが、マザーファンドにおいて他のベビーファンドの追加設定・解約等に伴う売買等を行う場合には、当ファンドの基準価額は影響を受けることがあります。
- 資金動向、市況動向等によっては、投資方針に沿った運用ができない場合があります。
- 収益分配は、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。))を超えて行われる場合があるため、分配水準は必ずしも当該計算期間中の収益率を示すものではありません。
投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況により、分配金額の全部または一部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。分配金は純資産から支払われるため、分配金支払いに伴う純資産の減少により基準価額が下落する要因となります。当該計算期間中の運用収益を超える分配を行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べ下落することとなります。

ご留意事項

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料であり、法令に基づく開示書類ではありません。
- 投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。
- 投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。
- 投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します(外貨建資産を組入れる場合は、為替変動リスクもあります)。投資信託の運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではなく、また、登録金融機関から購入された投資信託は投資者保護基金の補償対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、当資料の記載内容、グラフ・数値等は資料作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料中に例示した個別銘柄について、当該銘柄の推奨または投資勧誘を目的としたものではなく、今後当ファンドが当該有価証券に投資することを保証するものではありません。
- 当資料の運用実績に関するグラフ・数値等は、過去の実績を示したものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。なお、各主体は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任はありません。

＜使用インデックスについて＞

- 東証株価指数(配当込み)は株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が発表する指数です。MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が発表する指数です。それぞれの指数に関する知的財産権その他一切の権利は指数の発表元に帰属しますが、当ファンドの運用成果等に関し一切責任はありません。

手続・手数料等

お申込みメモ

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。(基準価額は1万口当たりで表示しています。以下同じ。) ※基準価額は、販売会社または委託会社へお問合わせください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から受益者に支払います。
購入・換金 申込不可日	申込日がニューヨークの証券取引所の休業日には、購入・換金の申込みの受付は行いません。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金の申込みには制限を設ける場合があります。
購入・換金申込 受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	無期限(2023年8月28日設定)
繰上償還	受益権の口数が30億口を下回ることとなったとき、またはこの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、あるいはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。
決算日	6月15日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。
信託金の限度額	1,000億円
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益が課税対象となります。公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度（NISA）の適用対象となります。 ※ 当ファンドは、NISAの「特定非課税管理勘定（成長投資枠）」の対象です。 販売会社によって取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社へお問合わせください。 なお、税法が改正された場合には、上記の内容が変更されることがあります。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用			
購入時手数料	購入価額に、 3.3%(税抜3.0%) を上限として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。 ※購入時手数料は、購入時の商品説明、事務手続き等の対価として販売会社にお支払いいただきます。		
信託財産留保額	ありません。		
投資者が信託財産で間接的に負担する費用			
運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に対し、 年1.463%(税抜1.33%) の率を乗じて得た額がファンドの計算期間を通じて毎日計上され、ファンドの日々の基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日(該当日が休業日の場合は翌営業日)および毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支払われます。		
	配分	料率（年率）	役務の内容
	委託会社	0.715% (税抜 0.65%)	ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、法定書類等の作成等の対価
	販売会社	0.715% (税抜 0.65%)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
	受託会社	0.033% (税抜 0.03%)	ファンド財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価
	合計	1.463% (税抜 1.33%)	運用管理費用(信託報酬)=運用期間中の日々の基準価額×信託報酬率
その他の費用・手数料	信託財産の監査にかかる費用(監査費用)として監査法人に年0.0055%(税抜0.005%)を支払う他、有価証券等の売買の際に売買仲介人に支払う売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合に当該資産の保管や資金の送金等に要する費用として保管銀行に支払う保管費用、その他信託事務の処理に要する費用等がある場合には、信託財産でご負担いただきます。 ※その他の費用については、運用状況等により変動しますので、事前に料率、上限額等を表示することができません。また、監査費用は監査法人等によって見直され、変更される場合があります。		

※当該手数料等の合計額については、投資者の皆さまの保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

●投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは



商 号 等：第四北越証券株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第128号
 加 入 協 会：日本証券業協会

●設定・運用は



商 号 等：明治安田アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第405号
 加 入 協 会：一般社団法人資産運用業協会